

	公表	事業所における自己評価総括表
--	----	----------------

○事業所名	児童デイサービスセンター希望ヶ丘		
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和7年3月1日 ～ 令和7年3月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設内が構造化されており、活動する場、静養する場等広さが充分にある。車椅子やバギーでの移動にも不安がない。	自立に繋がるよう、手すりの位置の調整や造設、玄関やトイレのレイアウトなど都度話し合いながら変えている。自分できたという達成感を感じられるよう環境を整えている。	空間が開けている一方で、狭くて静かな空間で落ち着きたいときの場所やアイテムが不足しているので、事業所内でできる空間作りやアイテムを取り入れていく。
2	常勤の理学療法士がおり、個々に合わせたプログラムによる機能訓練の他、集団での体操や日常生活動作練習を行っている。	本人やご家族のニーズに合わせて計画し、月2回以上の訓練を実施している。日常生活動作練習の一環として、入浴の自立に向けたタオル体操や、自分の身体について理解できるような訓練等、独自のものを取り入れている。	他職員への周知・協力を得ながら訓練時以外でも日常生活動作練習に取り組めるよう、継続して情報共有している。児童が必要な日常生活動作を習得・維持できるように練習を積み重ねられる体制を整えていく。
3	職員間で支援内容や利用児童のその日の様子等、こまめに話合ったり、記録として残し支援に活かしている。	児童の体調や環境の変化、成長に伴う心や体の変化等見逃さない様、様子やご家族とのやり取りを記録し話し合いやアセスメントの材料としている。	研修等に参加しながら専門性を高め、様々な視点から意見を出し合い支援に活かせる様にしていく。また、他事業所や関係機関と連携を図りながら理解を深めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催やご家族が参加出来るイベントが少ない。	・ご家族の就労等で開催時期が定まらない。 ・受け入れ体制が整っていない。 ・前例の資料がなく開催に消極的。	・おたよりやアンケートを通し開催時期を決定する。 ・職員への周知をし、話し合いを重ね受け入れ体制を整える。 ・法人内の事業所や他事業所から意見をもらい参考にしながら開催に向けた取り組みを行う。
2	入浴設備はあるが、リフト浴等には対応していない為、入浴出来る児童が限られてしまう。	・同一敷地内の事業所の設備を借りるなど対応しているが、曜日と時間に限りがある。 ・下校時間が遅く入浴に時間を割けない。 ・入浴に人員が入ることによって現場に人員が不足することもあると考えられるので、セーブせざるを得ない。	・本人やご家族のニーズに応えながら柔軟に対応できるように体制を整えていく。 ・人員や利用時間に無理のないよう調整しながら、現在の取り組みを維持できるようにしていく。
3	地域の児童との交流が少ない。	・様々な特性や学年の児童がいる中で、地域の児童との交流の機会を作ることができていない。	・近隣の児童館や学童を招待するなどイベントの立案、開催に向けた取り組みを行っていく。